

根室市新庁舎建設かわら版

新庁舎の実施設計書が策定となり、今年度からいよいよ建設工事が始まります。今回は新庁舎のイメージや準備工事などについてお知らせします。

新庁舎完成までの進捗状況

基本構想	基本計画	基本設計	実施設計	建設工事	新庁舎
R2.3 策定	R2.11 策定	R3.2 策定	R4.3 策定	現在	完成!

新庁舎の実施設計が完成しました

新庁舎の建設工事に着手するため、基本設計からさらに詳細部の設計を行い、令和4年3月に「根室市新庁舎建設実施設計書」を策定しました。新庁舎の供用開始は令和6年5月を予定しており、今年度から新庁舎の建設工事に着手する予定です。また、実施設計書（概要版）には新庁舎の新たな外観・内観のイメージパースが掲載されておりますので、ぜひご覧ください。

新庁舎の外観イメージ①



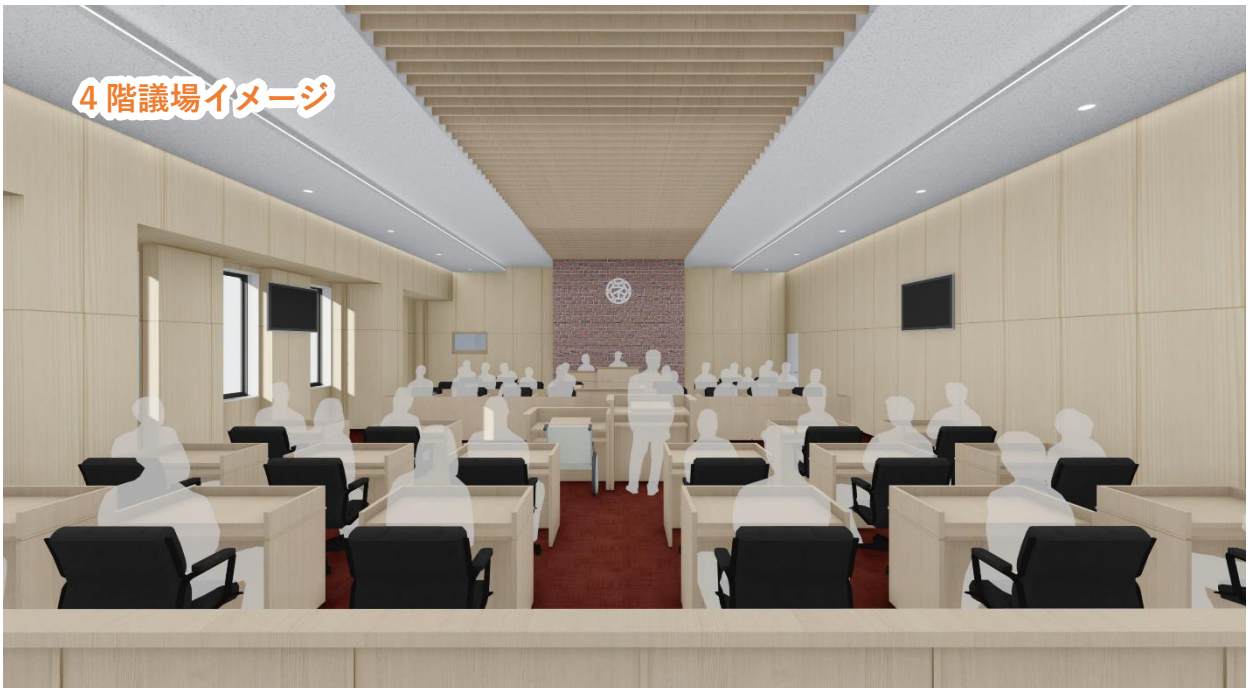
新庁舎の外観イメージ②



1階エントランスホールイメージ



4階議場イメージ



4階市民交流サロンイメージ



新庁舎建設の準備工事が始まります

令和4年4月中旬から現庁舎の来庁者用駐車場内にある樹木を移植し、緑地帯を仮設の駐車スペースに整備する工事が始まるほか、5月には現庁舎の裏側にある倉庫や書庫などの附属建物を解体する工事が始まります。工事中は現庁舎の正面玄関及び地階玄関から庁舎への出入りは可能ですが、現庁舎裏の道路は工事車両の出入りにより仮囲いをするため、振興局側から一般車両の出入りは出来なくなります。なお、新庁舎の建設工事については7月上旬を目途に着手する予定となっておりますので、詳細については改めてお知らせします。

<工事イメージ図>



樹木の採穂作業を行いました

かわら版第5号でお伝えしたとおり、昨年5月に根回し作業を行ったチシマザクラやシコタンマツは今春に移植を予定していますが、庁舎周辺のカラマツは伐採となることから、後継樹を育て、新庁舎の建設後に植樹することを計画しています。後継樹とは、既存樹木と同じ遺伝子を持つ樹木のことをいい、遺伝子を残す樹木から芽の付いた枝（穂木）を切り取り、土台となる別の樹木に断面を結合（接ぎ木）させて育てることによって、穂木を採取した樹木と同じ遺伝子を持つ新たな苗木を生み出すことが可能となります。この穂木を切り取る「採穂作業」は今年の1月に、遺伝子資源の保存のため、伐採となるカラマツのほか、移植するシコタンマツに行い、それぞれ数本の穂木を採取しました。

↓伐採予定のカラマツ

↓移植予定のシコタンマツ



●カラマツの穂木

今回の採穂作業は国立研究開発法人森林総合研究所 林木育種センター 北海道育種場の事業「**林木遺伝子銀行 110 番**」によって行われたものです。採取した穂木は林木育種センターにおいて苗木を増やし、成長したものを新庁舎の建設後に敷地内へ植樹します。また、増やした苗木の一部は林木育種センターにて林木遺伝子資源として保存し、研究材料として活用されることとなります。

林木遺伝子銀行 110 番の流れ

①既存樹木から芽の付いた枝を採取

②土台の樹木に結合

③林木育種センターで苗木を増殖



根室市役所へ苗木を里帰り

林木育種センターで苗木を保存、
研究材料へ

担当課 **根室市総務部庁舎整備推進課**

☎ : 0153-23-6111 内線 2239

✉ : sou_tyousya@city.nemuro.hokkaido.jp

● 根室市 HP →
(庁舎整備推進課のページ)



URL はこちら↓

● <https://www.city.nemuro.hokkaido.jp/lifeinfo/kakuka/soumubu/tyoushaseibisuisin/index.html>